

平成 24 年度第 3 回市民協働推進委員会会議概要

- ◎日 時 : 平成 24 年 10 月 29 日 (月) 14:00~15:30
- ◎会 場 : 市役所本庁舎 3 階会議室
- ◎出席委員 : 名和田委員長、浅野副委員長、長谷川委員、寺田委員、木田川委員、宇田川委員、小林委員
- ◎事務局職員 : 飯塚自治人権推進課長、林田主査、石原主査補、小田主査補、橋本主任主事、高柳主事
- ◎傍聴者 : 1 名
- ◎議題
- (1) 採択事業の現地確認を振り返って
 - (2) まちづくりフォーラムについて

1. 開会

事務局：朝早くからお疲れ様でした。簡単にここからの流れについて三点報告する。一点目、会議公開について。先日通知した通り、会議は公開となる。傍聴者の方が 1 名いるのでご承知おきいただきたい。会議は概ね 15 時 10 分を終了時刻としている。今回市民協働事業の現地確認をしたことを踏まえての振り返り、その後まちづくりフォーラムについて意見交換を予定している。傍聴人の対応については、後程委員長からの指示に基づき、事務局で対応させていただく。

課長：本日は第 3 回の会議と言うことで、委員長他委員にはご出席いただき御礼申し上げます。平成 24 年度事業として採択された市民協働事業の委員の意見交換として開催した。まちづくりフォーラムについてもご協議いただきたい。

2. 委員長あいさつ

委員長：本日の事業現場の視察は大変実のあるものだった。審議に生かしてほしい。では、傍聴人の入室誘導をお願いしたい。

3. 議事

(1) 採択事業の現地確認を振り返って

委員長：議事が今回 2 つある。朝早くからかなりタイトなスケジュールで現地視察を行い疲れていると思うので、簡潔に中身の濃い会議を行いたい。「採択事業の現地視察を振り

返って」ということだが、意見のある場合は挙手していただきたい。会議の成立の確認だが、定数10名で7名出席なので、施行規則18条により、会議は成立している。半日見て回ったので色々な思いがあると思う。どの事業に限定しなくてもよいが、意見・感想をいただきたい。

委員：最初の所から少しずつ思ったことを。おもてなしガーデンについて。車では通ったことがあったが、道路だということは全然知らなかった。バス停から見るとシックな感じがして良い。あのままではもったいない。ベンチなどがあってくつろげる場所があれば良い。臼井ふるさとづくり協議会について。学校との連携がかなりすごいと思った。ワーカーズコレクティブの方だが、申請の段階では相談事業と言うことで助成申請していた。これはうれしいことだが、食器のリースが忙しくなったということで、相談事業が計画通りいかないとのこと。この事業自体がうまくいけば、助成の分も賄えるのではないか。申請を受けた際に話は聞いていたが、現場を見て、生の声を聞くことが出来て良い研修になった。

委員：今日の視察で、書類からはわからない点が見ることによってわかったので良い機会を与えていただいた。おもてなしガーデンの所で、今日初めて道路だということを知った。噴水のスペースが生かされておらずもったいなかった。臼井ふるさとづくり協議会の方は、事業として完成してきていると思った。キーマンとなる人が地域にいて、学校の校長先生、教頭先生との方針とも合ったからうまくいっているのだと思った。子どもに関することに特化している印象はあったが、校長や宇田川委員の話聞いて納得がいった。風車は、申請段階の相談事業から横道にそれているのが残念だった。結局人がいないという印象。もう少し人材があつて相談事業に人を回せば、上手にこなすことが出来たのでは。採択事業を意識した進め方をされても良かったのでは。

委員：佐倉バラ会は近くで見るといまひとつ地味だと思っていたが、バス停から見ることを計算して設計されたというのがバス停に行ってみて初めて分かった。かかった費用以上の素晴らしい出来になっていた。ただ、あそこの場所で人集めが出来たらと思うので、現在道路なのだが是非道路ではなくして欲しい。警察に働きかけるのかどこに働きかけるのかわからないが、佐倉市の土地と言うことなので、道路ではない扱いにしていただきたい。駅側のロータリーではない方から入れるようにしていただければ、憩いの場になるのではないかと。また、花・樹木を説明する看板もあつたら良い。協力者の募集を、自治会長ではなくて個々の地域の方に協力を募るということでチラシ配りをし、バラバラと周りが参加してくれば自治会も動くかもしれない。臼井ふるさとづくり協議会は、時間が色々なわだかまりを消して、醸成されるのだということを実感した。ただ、そこに至るまでは厳しいご苦労があつたのではないかと拝察した。

確固たる意志を持った方がいないと、なかなか進んでいかないと感じた。風車は、この団体のコアの事業の方が少し忙しくなったということで喜ばしいことだが、助成事業がおろそかになってしまっている印象を受けた。いかんせん活動している方の状況を拝見すると、無理はできないという印象。

委員：おもてなしガーデンについては地域と今後どうしていくかが問題。今年の夏は個人的に手伝ってもらった方が何人かいて、先々はうまくいくと思うのだが、地域との点だけ気を付けてやってもらいたい。臼井ふるさとづくり協議会は、昔遊びについて、今までと考え方が変わった。子ども達に遊びそのものがどれくらい伝播するのだろうか、ということを楽しみに気にかけていたが、それは単なる手段でお年寄り子ども、地域と子どもが昔遊びで心を通わせるという一つの手段なのだと、あれ自体が目的ではないと感じた。そういう意味で、事業そのものについての意味合いが分かって良かった。風車の方も話が出ていたが、もう少しこの事業についての積極的なコメントが欲しかった。ただ、あのグループは仕事が忙しくなって手が回らないというのは決して悪いことではない。しかし、もう少し事業に対する配慮が欲しかった。

委員：臼井ふるさとづくり協議については、皆様の意見を励みにして協力して頑張っていきたいと思った。佐倉バラ会についてだが、おもてなしガーデンは市民協働事業として認めた時の目的、どういう効果を求めて事業を始めたか考えた。JRを乗降する方を対象としているのか、近隣住民を対象としているのか。基本的な所で違いが出てくる。憩いの場としてももう少し活用できないかと言う立場に立てば、壁を乗り越えた工夫が必要ではないかと感じた。風車については、あの場所にあのような団体があるのは初めて知った。こういう風に一生懸命地域でやってらっしゃる方がいるんだな、と言うことにまず感心した。相談事業が目的だったが、必ずしも全部が全部そうだったわけではないようだが、これからも努力していただきたいと思った。全体的には、現場を見るということで非常に参考になり、勉強になった。

委員：皆さんが言うように、百聞は一見に如かずと身を以て感じた。推進委員会と名前が付いているので、採択した事業の進捗状況の確認は欠くべからざることなので、今日は大変意義のあるものだった。おもてなしガーデンについて、私は後ろ側にも回って、バラ会の方に話を伺った。なかなかプレゼンテーションでは伝わって来なかったのだが、植物に対する情熱が、短時間でも熱心だと感じることが出来た。ただ、道路指定されているということだったが、地元住民がその場所を避難場所として求めているのだったら道路から公園に変えた方が良いのではないかと感じた。何か変えられる余地はあるのではないかと感じた。地元の要請で公園化すれば、協働事業できちんとした整備した場所に来るのではないかと感じた。臼井ふるさとづくり協議会だが、杉本先生が地域は人材バンクなので、行事を実施する時に新規の人達と経験のある人達を呼ぶことに

よって中身の濃い事業になったりするというのが、言われるとそうだなと思うがなかなかその話を聞くまでは、まち協は学校にとって負担だと思っていたので発見だった。風車は、スタッフの方がまだまだ慣れていないので、組織作りの部分の意識が高まっていない。きっかけとして協働事業を使うのは悪いことではないと思った。

委員長：皆様のおっしゃっていた感想が市民感覚ではそうなのだろうと思う。道路指定を解除するのがどれくらい法律上難しいことかわからないが、市民感覚としては真っ当な議論だと思う。臼井ふるさとづくり協議会に関しては皆様語りつくしているが、子どもを中心にしているというのはある意味非常に珍しくて、今は人口が全体として高齢化が進んでいるので、まずそちらに目が行ってしまう。そのような中では非常に珍しく、子どものためだからということでもとまるという非常に良い事例であり、全国的にも発信したい。風車は、先程のお話のとおりだと思ったが、組織的にまだかかりしていないで、前からの仲間の取り組みと言う面がある。協働事業があっても忙しいと片手間にしたり、協働事業の進行管理をきちっとするというスタイルではない。ある意味素人的なのは悪いことではないが、NPO法人格を取得しているのに、そちらの成熟も必要ではないか。今日はかなり遠くからクライアントが頼ってきていた。あてにされる存在になっていくと、仲間内の活動ではなくてかかりとした組織的対応が出来るような組織体質になっていく必要があると思った。もう1つ、お題目としては地域に開かれたうんぬんと良く言われて、それは大事なことだが、実際は非常に難しいというのをよく聞く。どの段階が今のあの団体にとって適切な線なのかというのが、自分には知識が無いのでわからなかった。精神の分野なので、なかなか難しいと思う。だが、地域とのお付き合いが一定ライン以下のままで良いということでもない。その辺りを何とか少しずつ前進していただきたいという感想を持った。現地視察と言うのはなかなか良いと感じた。

委員：風車の協働相手はどこか。

事務局：自治人権推進課である。広報関係の協力をしてほしいという支援依頼があったため。

委員：内々の会ではなく、組織としてやっていくということはある程度指導が必要。行政側でサポートすることはできないか。

委員長：それは私も視察の中で思った。建前論からいくとそういった専門的な知識を持っているのは社協や福祉部。何らかの関わりがあった方がよい。

委員：風車は去年県の助成を受けていると聞いたので、経験が無いわけではないと思う。

委員：風車がもっと組織だってやらなければいけないという問題意識を持たなければならぬ。それに気付かせるのは、市なのではないか。

委員：私も社協の仕事をやっているが、組織化の問題を自分達で気付くのは難しい。ずっと自分達でやっている人達には、組織化の概念が無い。外から誰かが入ること、あるいは教えてあげるとか、働きかけが必要。この委員会もそうだが、もう少し指示を出さないと動けない。自分で気づくのは不可能。

委員長：それは一つの論点。今回の件についてどういう形でやっていくか事務局の検討も必要だと思う。

事務局：今回は現地視察では、3団体のみであって他の市民協働事業に対して公平性を欠くので、本日の意見を年度末の事業評価の段階で書面上に付記させていただくという事でいかがか（→委員全員賛成）。

委員：臼井ふるさとづくり協議会の関係で、今日は臼井小学校を視察し、学校が関与する事業、協議会に対する学校側の見方考え方の話だったが、決してそれが協議会の取り組みの中心ではない。あくまでもまち協そのものは町会・自治会と各種団体が中心。学校は一団体にすぎない。しかし、事業としては子どもを中心に考えた方が、高齢者を巻き込むことも出来るし、保護者を巻き込むことも出来るという部分が多いため、その点に力を入れて各種事業を展開してきた。小学校に関わらない部分も、高齢者同士の集まりや、防災、環境美化、中学生を集めたものも毎年取り組んでいる。小学校が全部引っ張っていているという組織ではない。地域内に複数の課題があって、そのうちの1つとして子どものためにも何かならないかと言うのを事業として行っているという点について補足させていただきたい。

委員長：その通りだと思う。杉本先生が事務局長までやって、引っ張られたのはしづが原まち協。臼井の方は自治会や町会、各種団体が主体的にまとめてきたのだと聞いている。杉本先生も学校運営委員会について、しかるべく整理をすればまち協の一部会、参加者になるという位置付けだった。それは学校の関わり方として非常に良い。逆にああいう関わり方をして下さると言うのは学校としては珍しい。なかなか地域から話を持って行っても聞いてくれないことが多い。

(2) まちづくりフォーラムについて

委員長：事務局から説明をお願いしたい。

事務局：お手元の資料については、本日も欠席の委員から提案された意見も含め全ての意見を取りまとめたものとなっている。こちらのテーマをまとめるにあたり、委員長と私とでお話をさせていただいた。委員長としては、市民協働をより継続性のあるものにしていくためには足元が大事だというお話をいただいた。また、今日一日回った中で、キーパーソンや人の繋がり大切さを私自身も再認識させられた。実際に関わっていない人達を含めて盛り上げていくような、意識喚起につながるようなフォーラムにした方が良いのではないか。そういったことを踏まえたテーマ出し、その設定理由、また講師と言う観点からまとめさせていただいたところ、大きく10点のご提案が寄せられた。一部テーマ名が無かったり、テーマの設定理由等が無い所があったが、概要としては、テーマとして背景が塗られている部分が共通項になる。近所、絆、地域づくりと言ったワードから構成されたテーマが比較的多かった。テーマの設定理由についても、身近な繋がりが出来ていない中で大きなことはできないのではないかと理由が多くあった。講師は誰かと言った時には、NHKの「難問解決！ご近所の底力」のプロデューサーの方は全国で色々な箇所でも講演をされており、大変人気がある。そういった著名な番組を取り扱っているお話の上手な方を活用しながら、まずは多くの人をフォーラムに集める。そしてまちづくり参加への意識喚起に繋げるということで、No.2, 3, 4, 5というのが共通項として見られた。その他は、「地域に広げるきっかけづくり」も講師については同じような状況だった。また一方で、「活動の継続と展開のための戦略的な立て方」、星野リゾートの社長や、港南台タウンカフェの斉藤氏等を挙げていただいた。また、具体的テーマとして防災のご提案もいただいている。

委員長：これまでも皆様方に事務局からアイデア出しのお願いがあり、その意味では議論は進んできたのかもしれないが、今回は正式の委員会で正式に決めることになる。講師をお願いするとなると、忙しい方ばかり候補に挙がっているので、今から折衝していかなければならない。ご意見があれば伺いたい。黒川氏と言うのは初代のプロデューサーか。

事務局：はい。堂垣氏は、委員長が国の審議会でも席が隣だったと聞いている。

委員長：五十音順で座るため、隣に座っていた。氏と一緒した時は委員になりたてであまり発言していなかった。その後経験を積まれて、今は違うと思う。中林先生は防災の第一人者で、つかまるかどうか分からない。

委員：ここに出ていない方だが、山崎亮さんという方。最近メディアで注目を浴びているが、コミュニティデザインということで自分達でまちを作るというお話をされている方。NHKと比べると弱くなってしまうが、住民が参加して皆でまちを作るという考え方にとても共感した。

委員長：今付け加えてもよいのか。

事務局：本日、議決されれば、交渉させていただく。

委員長：山崎氏とは実は先々週ご一緒している。自治労が二年に一度行っている自治研修会に呼びたいということで、首脳部が頑張って何とか出ていただいた。私はシンポジウムのコーディネーターで、山崎氏が基調講演とパネラーになった。山崎氏中心に開催された。山崎氏の大学時代の先輩経由でようやく捕まえた経緯がある。すでに挙げられている候補の方々と同じくらい忙しい方。私も伊賀市、鹿児島市で視察をした都度、山崎氏の講演に出くわした。

委員：この種のフォーラムを開く時、一般市民に参加してもらうということも大事だと思う。山崎氏のことも含め、内容的には遜色ない気がする。その中でも、ネームバリューからすると、NHKの黒川氏ではないかと思う。

委員：私も誰が良いというより、この人ならどれだけ人が来るかと言うのが大事だと思う。我々としては沢山人が集まってもらうのが第一目的。NHKの方の話を何人か聞いたことがあるが、色々な番組を作っているので、話の内容が非常に豊富で面白い。大体間違いない。捕まるのであれば、その方が良いと思う。

委員長：先週川崎で行ったフォーラムでは、尾木ママが来ていた。彼目当てに普段来ないような人がどっと来ていた。あの効果はすごいと思った。その点は重要だと思う。普段の活動で顔を合わせないような方にたくさん来ていただくというのは重要な事項。木原氏のことを御存じか。山崎亮氏もネームバリューはあるが、一定の人しか知らないかもしれない。

委員：市民協働を周知させる段階で、NHKの方は良いと思う。その次に、活動している団体に対しての講師としては山崎氏が良いと思う。

委員：団体の継続を考えるとその方のほうが良い。その後育ててくれるような力量があるのではないか。

委員：一般的には、黒川さんが良い。

委員：継続していく必要がある、継続するか否かはこれを聞いた人たちが捉えることだと思う。

委員長：長谷川委員の発言で、NHKは安心できるという意見があった。黒川氏と堂垣氏とどちらでも良いか。私が一緒だった時は、堂垣氏は新人だったのであまり発言されなかった。その後プロデューサーとしての経験を積まれているので黒川氏と同じくらいお話が出来ると思う。この二人のいずれかを狙う交渉か、どちらでも良いか。

委員：私もわからないが、番組が始まった時はすごいなと思ったので、その意味でなんとなく黒川氏ではないかと思う。最初の方が色々な苦労話があるのではないか。

委員長：委員会としての正式な決定になるので、事務局の議事進行上採決になるということか。

事務局：そうなる。この会議の中で決定していただき、後日交渉を開始する。テーマを含めて番号で採決していただきたい。

委員長：No.1から10まで、挙手していただく。多かった所に決め、その後複数講師が書かれている2, 3, 4辺りを、絶対この講師でないと駄目か等を決める。

多数決：No.1⇒0 No.2, 3, 4⇒5 No.5⇒0 No.6⇒0 No.7⇒0 No.8⇒0 No.9⇒0 No.10⇒0 No.11⇒2

では、地域の絆と言う趣旨に決める。講師は出来るならば黒川氏、叶わなかった場合堂垣氏ということにする。どちらも叶わなかった場合には皆様方にも事務局からご相談があると思う。その方針で全会一致ということで交渉したい。

事務局：テーマはどれか一つにしていきたい。

委員長：どれが好みと言うことになるが。多数決で決めたい。

委員：特徴的なのはNo.2かNo.3ではないか。

委員：多数決に、資料に入っている若狭での「ご近所の底力発揮の秘訣」というコピーも入れるのはどうか。

委員：「ご近所の底力」は入っていた方が良いと思う。

委員長：No.2から4に、その若狭版をプラスして多数決をしたい。

委員：No.3の一部を削り、「ご近所の底力に見る地域の繋がり」で良いのではないか。

委員：No.3 を省略し、「支え合う地域の繋がり～御近所の底力～」ではどうか。

委員：支え合うと繋がりとは重複するのではないか。

委員長：今出ている有力な案として、副題だけにするのも選択肢の一つだと思ったが。

No.2、No.4、若狭版、No.3 の副題を本題にしたものの4つの選択肢から多数決で決めるということにする。では、本年度については「“ご近所の底力”に見る地域のつながり」で全会一致とする。No.3 の副題を本題としたものをテーマとするのが委員会の意向とする。講師については事務局に最大限努力していただくが、万一手配できなかった場合は委員の皆様と再度調整するということになる。昨年度のフォーラムで、大体3つくらいの段階があった。一つ目が採択団体からの事業発表。8つの団体が協働事業に関する発表をした。その後講演会があり、質疑応答で私と浅野副委員長が担当した。これをベースにもし改善点等があれば、ご意見を言っていたきたい。今回このような講演者が来た場合、講師が委員会の委員ではないので状況が違うと思う。また、講師の方が採択団体からの事例発表を聞いてもらうべく早めに来てもらえるという保証も必ずしもない。なかなか忙しい方々なので、ギリギリに来ることもよくある。昨年からの反省点、改善点などあれば、講師が黒川氏と決まった場合、どんなスタイルかある程度リサーチをされていますか。

事務局：黒川氏の過去のやり方を見ると自分が担当した番組の映像を流しながら、参加者に質問形式をとり、普通の講演ではなく観客を巻き込む形の様子。当然映像を取り上げるということは、おそらく佐倉市として抱えている課題・問題をヒアリングしてくると思う。先程、委員長から話があったが、防災はキーワードなので、その点に関してなど、ある程度特定の分野についてヒアリングがあると推測している。ただ単に話してもらうのではなく、この分野に焦点を置いて、ということがあれば今ご提案していただきたい。防災と言うのはお話いただく事例として考えられるが、限られた時間の中で何個話せるかわからないが、実際に市内で生活している中で感じる点でもかまいません。

委員長：今日の視察の印象が強くなってしまおうと思う。

委員：間違いなく防災に関することは出ないと思う。要援護者の問題も絡んでくるし、小中学生などの子ども達が学校に行っていた場合の地域との関わり。下校中に地域はどうするかなどの問題が出てくる。防災に絡めて、学校はどう関わるか、地域はどう関わるかという点を取り上げてもらえばありがたい。

委員長：他にいかがですか。

今のご意見を踏まえて交渉していただきたい。

事務局：子ども、防災、要援護者の見守りをテーマに交渉していく。

委員長：事務局は決定したら速やかに各委員にお伝えいただきたい。

意見交換は以上とする。議事録署名人は、長谷川委員にお願いする。それでは、その他に入る。

4. その他

事務局：今日一日お疲れ様でした。今後の会議について報告する。明確にこの後の議題としては、年度末の事業評価以外はない。急遽会議を開催するとすれば、上志津小学校区のまちづくり協議会が準備会の段階なので、進捗状況によっては年度末辺りに委員会を開く可能性がある。まちづくりフォーラムの開催日ですが、施設の予約の関係があるので、ひとまず2月17日の日曜日、中央公民館で予約を入れさせていただいた。次回、委員の皆様が一堂に会する機会としてはまちづくりフォーラムの席上になると思う。

委員長：ご質問等ないようなので本日会議は以上です。

お疲れ様でした。

平成24年12月4日（火）

委員長	名和田	是彦
副委員長	浅野	訓子
議事録署名人	長谷川	大美